



No. 156 2025.1
 (株) よかネット

NETWORK

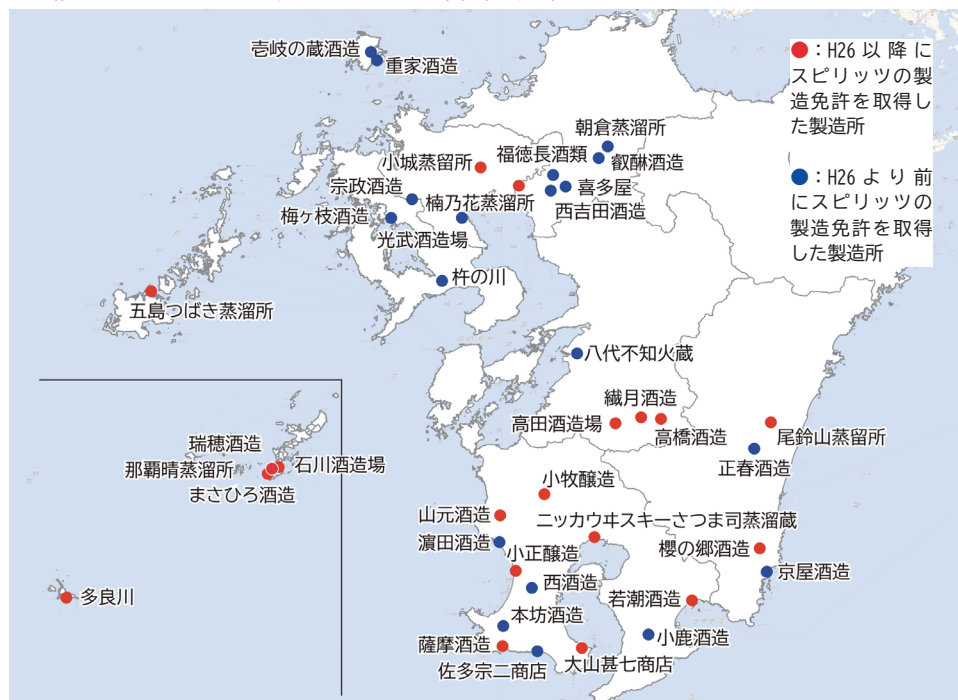
TSMC は周辺市町の人口等に影響を与えているのか 2
 九州 “で” 観光を考える 4
 見・聞・食
 川内大綱引きを見てきました 11
 近況
 観光産業への期待 12
 八女市上陽町芋焼酎プロジェクト ～第 15 回収穫祭～ 12
 アドベンチャーツーリズムの商品開発 14
 2024 年の振り返りと 2025 年の抱負 15
 新たな路地裏飲食店を見つけました 17
 九州の動物園、どんな動物がみられる？ 18
 新年の抱負 20
 一級建築士試験にリベンジ！ 20
 志賀島の支援を始めて感じた喜びと学び 21
 オタ活続いています 21
 BOOKS
 教会建築家 鉄川与助の生涯 22
 ビクター・グルーエン 23
 表紙解説 24

●蒸留酒の新しい挑戦

数年前から「クラフトジン」という言葉をよく耳にするようになった。サントリーの HP によると「クラフトジンに明確な定義はないが、サントリーでは、主に作り手により、原料・製法・産地などに強いこだわりをもってつくられるジン」と書かれている。

九州内でクラフトジンを作っている製造所を調べてみた。H26 以降に新たにスピリッツの製造免許を取得した製造所などの HP や大手通販サイトを検索し、確認できたのは 39 カ所あり、その内スピリッツ専門の製造所は 4 カ所あったが、他の 35 カ所は別の蒸留酒を既に製造しており、クラフトジンという新たな酒類の製造に挑戦している。(詳細は表紙解説 P24)

九州内でクラフトジンを製造している蒸留所の分布



スピリッツ専門の製造所の代表的な商品



スティルダム (楠乃花蒸溜所)



OGIN 想 (小城蒸溜所)



GOTOGIN (五島つばき蒸溜所)



那覇晴 (那覇晴蒸溜所)

TSMC は周辺市町の人口等に影響を与えているのか

山崎 裕行

今年度、益城町の人口ビジョン及び総合戦略の策定をお手伝いしている。その関係で、益城町をはじめ、菊陽町、大津町、合志市といった TSMC 進出の影響を受けるであろう市町のデータを一通り整理している。その中で、今回は人口に注目し、TSMC が 2021 年 10 月に熊本県菊陽町に新工場を建設すると発表した前後の変化を追ってみたい。

■位置図

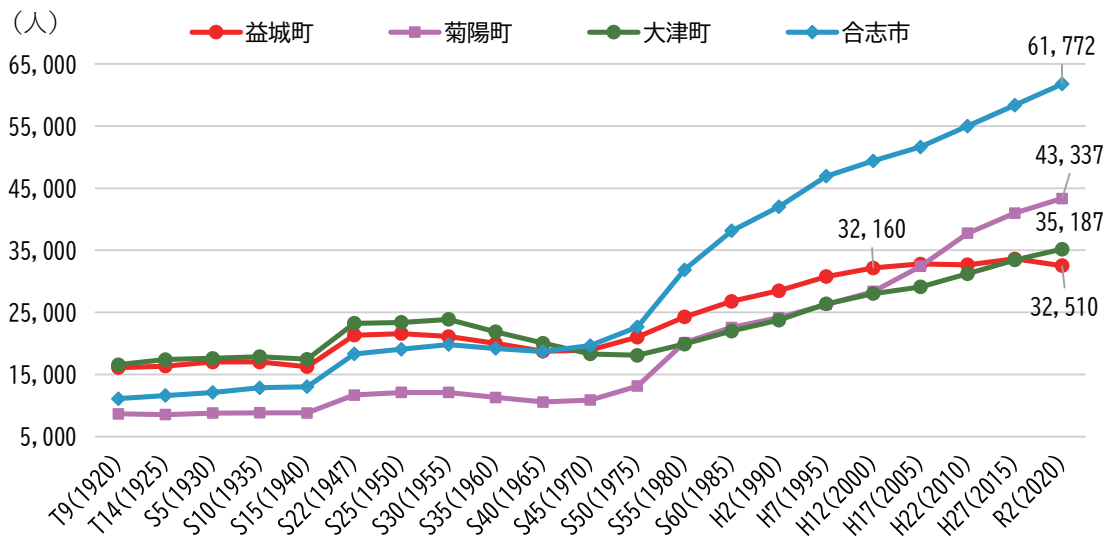


●長期的な人口の推移

まずは、1市3町の長期的な人口の推移をみる。熊本県 HP では、県内の市区町村別人口について大正 9 年からの国勢調査に基づく推移を整理している。これによれば、最も古い大正 9 年の人口を見

ると、大津町が最も多く 16,574 人、次いで益城町 16,119 人、合志市 11,098 人、菊陽町 8,665 人である。20 年後の昭和 15 年をみると、順位は変わらず大津町が 17,459 人、益城町が 16,254 人、合志市が 13,036 人、菊陽町が 8,815 人である。最初の変化が起こるのは戦後から昭和 30 年の間で、昭和 22 年には大津町や益城町は 2 万人、菊陽町は 1 万人を超える。合志市は 18,000 人を超えている。次に変化が起こるのは、昭和 45 年以降のいわゆる高度経済成長期であり、特に合志市はここから一気に人口増加が起こる。昭和 45 年に 19,651 人であったのが、昭和 55 年には 31,856 人、平成 2 年には 42,014 人と、20 年間で約 23,000 人の増加となっている。益城町や大津町、菊陽町でも同様に人口増加しているものの、合志市程ではない。しかし、平成 12 年以降を見ると、益城町は平成 12 年以降 32,160 人以降、ほぼ横ばいで推移して、令和 2 年は 32,510 人である。菊陽町は平成 12 年 28,360 人から令和 2 年には 43,337 人と約 15,000 人の増加、大津町は平成 12 年 28,021 人から令和 2 年 35,187 人と約 7,000 人の増加となっている。平成 28 年に熊本地震が発生したが、甚大な被害を受けた益城町の人口は微減し

■人口の推移



■直近の人口の推移

益城町	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
日本人	32,932	33,193	33,343	33,570	33,852
外国人	167	164	145	148	189
総数	33,099	33,357	33,488	33,718	34,041
外国人割合	0.5	0.5	0.4	0.4	0.6

合志市	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
日本人	62,325	62,714	63,390	64,059	64,177
外国人	315	319	311	415	574
総数	62,640	63,033	63,701	64,474	64,751
外国人割合	0.5	0.5	0.5	0.6	0.9

菊陽町	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
日本人	41,847	42,403	42,917	43,185	42,928
外国人	459	438	418	529	987
総数	42,306	42,841	43,335	43,714	43,915
外国人割合	1.1	1.0	1.0	1.2	2.2

大津町	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
日本人	34,740	34,963	35,372	35,444	35,232
外国人	385	431	435	586	781
総数	35,125	35,394	35,807	36,030	36,013
外国人割合	1.1	1.2	1.2	1.6	2.2

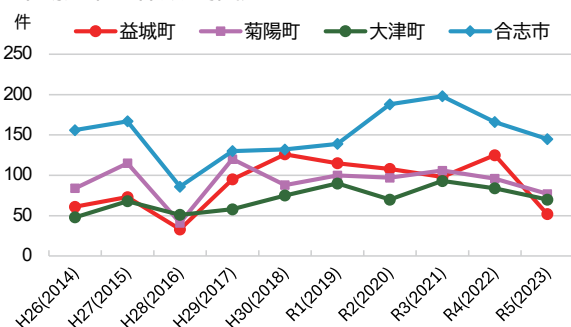
たものの他市町の人口への影響はそこまで大きなものではないことが伺える。

合志市の人口増加の要因について、平成 27 年 10 月に策定された「合志市人口ビジョン」によれば、「熊本市周辺という通勤、通学の利便性及び適度な住宅価格帯であること、また市内工業団地等への企業進出の影響から現在も増加傾向が続いています。」とある。熊本市のベットタウンと、工業団地等への企業進出の影響という構図は、他の 3 自治体も同様であると思われる。ちなみに、令和 5 年の住民基本台帳人口移動報告をもとに、各市町の転入・転出の状況を見ると、合志市と益城町は転入者が転出者を上回っており、転入者の元の住所をみると、最も多いのは熊本市となっている。県内で最も多い人口を誇る熊本市からの転入による社会増が、人口増加を支えている。一方、菊陽町と大津町は転出者が転入者を上回る社会減である。

●直近の人口の推移

国勢調査は 5 年に 1 度に行われ、直近は令和 2 年の調査となっている。令和 2 年以降の人口の推移については、住民基本台帳で人口を見ることが出来る。そこで、1 市 3 町の令和 2 年から令和 6 年の人口の推移（各年 1 月 1 日時点）を整理した。

■不動産取引件数の推移

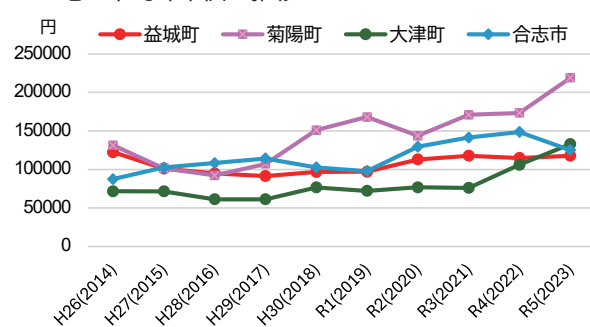


これによると、益城町は令和 2 年 33,099 人であったのが、令和 6 年 34,041 人と約 1,000 人の増加となっている。同様に菊陽町は 42,306 人から 43,915 人と約 1,600 人の増加、大津町は 35,125 人から 36,013 人と約 900 人の増加、合志市は 62,640 人から 64,751 人と約 2,000 人の増加となっている。ただし、増え方には違いが見られる。益城町や合志市は日本人と外国人の双方が増えている一方で、菊陽町や大津町では、ここ 1、2 年は、日本人は減少し、外国人が増加している。日本人の減少分よりも外国人の増加分の方が多く結果、菊陽町の総数は増加している。菊陽町にある TSNC の第 1 工場は令和 6 年 12 月に本格稼働をはじめた。菊陽町や大津町の外国人数は、令和 5 年から令和 6 年にかけて増加していることから、TSMC の影響と考えられる。

●地価や不動産価格への影響

人口が増えることで、その受け皿となる住宅の不足が問題となっている。民間賃貸住宅情報 (LIFULL HOME 'S) の調査によると、「新工場周辺の菊陽町・大津町・合志市における賃貸物件掲載件数は、新工場が着手された後に急激に減少し、その後も低水準で推移している」とのことである。また、その要因としては、「新工場周辺では賃貸需要の増加に伴い、

■土地の平均坪単価の推移



既存物件の空室が少なくなっていること、空室が発生しても募集開始後にすぐに申し込みが入るなどで、1物件あたりの掲載期間が短くなっていること」と分析している。

不動産取引について、国土交通省不動産ライブラリーに掲載のデータより整理すると、1市3町の中で取引件数については、合志市はやや件数が多いものの、菊陽町や大津町、益城町は同程度である。一方で、土地の平均坪単価は菊陽町や大津町が2021年以降急激に上昇している。

また、地価公示の推移を見ると、令和3年以降、いずれの町も地価は上昇している。

TSMCの進出以降、特に菊陽町や大津町では、賃貸住宅の不足及び土地価格の高騰が起きている。

●効果と課題

TSMCは、菊陽町で第1工場、第2工場を整備し、併せて3,400人以上を雇用する予定であると表明している。台湾からの従業員は第1工場、第2工場を合わせて約900人で、家族を含めると約1,800人と言われている。さらに関連企業の進出や地域経済の活性化も含めると、約1万人の雇用創出効果が見込まれている。

菊陽町の令和3年の事業所数1,596カ所（平成28年から209増加）、従業員数は23,307人（平成28年から4,439人増加）であるが、従業者数の増減をみると、医療・福祉以外では製造業、サービス業（他に分類されないもの）で、それぞれ817人、983人増加しており、その内訳をみると、製造業は「電子部品・デバイス・電子回路製造業」、サービス業は「職業紹介・労働者派遣業」が増加している。既に工場立地の効果の一端を確認できる。

外国人がある程度まとまって移住してくることから、言語の問題はもちろんのこと、生活習慣の違い、教育・文化の違いから様々な問題も起こることが想定される。加えて、台湾の高雄と熊本を結ぶ航空便が来年2月に再開し、台湾からの交流人口の更なる増加も見込まれる。如何に多文化共生のまちづくりを推進していくかがポイントになる。特に、地域コミュニティの側面からは、各地で担い手不足や活動のマンネリ化、参加者の固定化、古くからの性別役

割分担の継続などの課題を抱えているが、多文化共生のまちづくりが求められる状況を、このような課題の解決につなげていく契機とすることが重要である。同じ地域に暮らす住民として一緒に活動することで地域活動そのものを見直す（資料等を日本語だけでなく外国語も併記するなど）、変えたくても変えられなかったこと（活動内容、参加資格など）を変える、新しいことに取り組む（交流イベントなど）ことなどが考えられる。

TSMCの周辺では、農地転用が進むとともに、大規模な土地区画整理事業が進行中または予定されている。これまで農地であった場所が工場用地や住宅用地に変わっていく。この変化のスピードは、おそらく想定していたものと大きく異なるのではないかと推察される。今後、どのように変化していくかも、誰も予想できないのではないかと。だとすれば、変化に合わせていくこともさることながら、まちづくりの中で何を一番大切にするかが問われていると思う。

（やまさき ひろゆき）

九州“で”観光を考える

村上 和夫・山辺 眞一

経済を考える時に、モノの生産や輸出を軸にその動向を考える傾向が日本には根強くある。日本経済の国際競争力が低迷していると言う問題を考える時もそうであったし、コロナ禍が落ち着いて経済活動が回復し始めた時にも、物財の生産やそのために働く労働者の生活が争点になっていた。

日本経済は、昭和を通じて製造業に強く依存し、多くの労働者がそれに関わっていたのでそのような見方が定着したのであろう。日本を発展に導いた視座は現在も色濃く残っているようである。都市生活や消費文化もその一端として認識されていて、いまだに続く大都市志向や人口集中もその現れと言えよう。

しかしながら、そうは言っても世の中では「バブルの頃に比べれば…」などと、1980年代までの極端な製造業中心主義と比較した30年後の現在の考え方や生活の違いを明らかにしつつ議論されることは

多い。

それは、人々の嗜好の多様化や多元化が、製品の評価志向を変えてきたと人々が考えるようになったからかも知れない。性能が一番（先端志向、ベンチマーク志向）であるよりも、ある程度の質があれば、安全で個々の消費者の要望に応える個別化が重視される様になったことの現れとも言えよう。このような変化は製造業における“モノのサービス化”と呼ぶ現象も引き起こしている。

この「モノのサービス化」と並行して、人口減少などの人口問題、デジタルを活用した様々なサービスのスマート化やDX (digital transformation) が、地域まで急速に進行して、都市でも地方でも生活の有り様も大きく変化させている。

このような大きな社会の変化を見る時に、それを理解する為に抽象的な議論を展開しようとするところがある。それは演繹的な方法に頼ろうとする訳で間違いではない。そこでは発展モデルを作り議論する形もある。これは近代の“右肩上がり”の時代には発展の“方向性”を示してくれるが、縮減しながらデジタル化などを活用して、フラットで個人を大切に現在の社会の捉え方は、それと異なると考えることができる。多様性や多元性を重視する見方、それはどのように考えたら良いのであろうか。

1. 自分の立ち位置（ポジショニング）

「九州“で”観光を考える」とは、日本において東京を中心にした同心円状の空間を描いた時の「九州」、即ち“地方”の上下関係について考えることが多かった。しかし、現在は人口問題とデジタル化を基礎に地域ごとの社会基盤や生活基盤の整備を検討するようになった。さらに諸国(特に近隣諸国)との関係における訪日観光客の増加、第一次産品や半導体・自動車などの生産拠点としてのグローバルな位置付け、SDGs や人新世 (Anthropocene) のとらえ方などの影響を受けて、地域の方向性を地球規模で考える「キュウシュウ (Kyu-Shu)」のポジショニングを描くようになっている。

観光事業にとらわれず、現在、九州をとらえる為の視座は近代とはかなり異なっており、前者の“中央・地方”モデルだけでは、そのポジショニングを

十分に明らかにできない状況である。思想やテクノロジー、そして海外で日本を利用する多様な人々 (user) との関係を考えてみると九州の役割は実に多様であり、日本国内にあっても単純に“中央・地方”の同心円的で直線的軸の上に置く事はできない。

観光を例にとると、かつての旅行ガイドブックで描かれていた「日本観光」のイメージや観光ルートが、現在の大手のオンラインの観光情報にも引き継がれていて、日光・箱根・京都・奈良・大阪そして東京が主要観光地点で、それは東海道新幹線が結ぶルートとなっており訪日観光客の集中が見られるが、このルートが完成したのは1900年代初期であり、多い時には年間数万人の訪日客数を得ていた。その後1960～1970年代までもメインルートであり続けたが、それでも訪日客数は20万人を下回る程度であった。

しかし、現在訪日客数は3,000万人に届こうとしており、従来のシステムを利用すれば、オーバーツーリズムは必須である。それと異なり最近では、ニッチな都市生活、農林漁家滞在、そして共創的なプログラムへの参加も増加している。そちらはコンスタントに来訪者があるもののオーバーツーリズム状態の場所はそれほど多くはない。

オーバーツーリズムを引き起こすような観光需要は、基本的には近代的観光を引き摺っていて、彼らの日本評価は、有名な「綺麗、清潔、親切丁寧」に象徴され、円安と相俟ってコストパフォーマンスの良さが際立つのである。これに対して、九州の訪日観光客の中心は韓国や台湾からの比較的若い世代の旅行者であり、FIT (Foreign Independent Tour: 個人客) が主体で、再訪回数が多く、母国では経験できない「多様で多元的な経験」を求める人々の来訪を特徴としている。もちろん彼らは東京や大阪にも足を運んでいるに違いない。しかし、彼らの嗜好は「一番よりも自分に合った」経験を志向する傾向が強い。

彼らは、カジュアルブランドのアパレルを母国でも購入できるが、自分の体型に合ったサイズの服飾を日本で購入する傾向が強い。さらに他のブランド製品とのコーディネートもできるのが、日本での買い物

の魅力などと SNS で語っている実態がある。

そして 1950 ~ 1980 年代のレトロな雰囲気の大衆店舗(喫茶店、屋台、中華麵屋、とんかつ屋など)での懐かしい近代を感じさせる接客サービスを受け、農家や漁家での農作物や海産物の収穫体験などを行ったりしている。それは、産業界が先端性を求めるあまり喪失してしまいがちな生産場面と生活場面が融合した経験であり、それに人気が集まっているのである。その情報が SNS などでも語により母国で提供され、閲覧者とのコミュニケーションが生まれ、個人的な価値へと昂められていくことになる。この傾向は、もちろん日本人においても 1980 年頃から同様の志向が見られたのである。

福岡市中央区にあるかなり古い近代住宅地に散在する飲食店を訪れてみると日本人の 40 ~ 50 代の女性グループと韓国人の 20 ~ 30 代のグループが違和感無く共存して談話している風景を目にすることが多い。その後、調べてみるとその店舗を訪れた韓国人の SNS 投稿がすでに韓国に存在しており、カフェの周辺を含めた丁寧な解説がほどこされている。上記したアパレル商品の購買と似た観光の様子を窺うことができる。

こうしてみると、近代型の観光事業(「中央・地方」型)で使われる商品化された旅行情報の試聴数や

利用者数とは異なる評価が存在すると言うことが出来、個人化した旅行の説明が呼び起こす旅物語の共創が旅行を創り出していることがわかる。

ここに“旅行者によるコトの消費”や“旅行のナラティブ(narrative:物語性)の共創と伝播”などが強く関わってくることになる。

2. 観光産業における DX の広がり

こうしてみると、近代観光が徐々に終わり、観光が一人ひとりの個人の旅行行動に即した機会やサービスを創り出している事に注目することが大切であることが解ってくる。

嘗ての近代の「観光」と観光の DX 化が、並行して進みつつあるが、両者の現在の観光との大きな違いは、なんだろうか。それは、団体観光か個人旅行かの違いと言っても過言でなからう。団体を単位として旅行することにより量産型で廉価志向の旅行費用(価格)を作り出すことが出来るので、団体に合わせた伝統的な旅行スタイルや楽しみ方を改善したサービスが生み出された。それによって、やがて旅行商品(パッケージツアー)が開発され、さらにモジュールの組み合わせの変更可能性を増すビジネスモデルに移行していくこととなった。そのために、近代という時代を超えて近代型の観光は存続してきた。

いずれにせよ近代型の団体旅行や旅行商品は、



韓国の SNS で紹介されている福岡市中央区のカフェ
(<https://m.blog.naver.com/PostList.naver?blogId=sailoks&tab=2>)

筆者解説) 젠틀한 할아버지 사장님 혼자 운영하시고, 들어오자마자 주문하고 착석한다. 깔끔하고, 따뜻한 분위기의 내부 넓지 않은 아담한 공간 셀프 시스템이라 메뉴가 나오면 불러주신다 :) 영어도 적절히 섞어쓰시면서 의사소통하기 위해 노력하신다. 여유가 느껴지는 미소! 간식으로 먹을 파니니를 고르는데, 들어가는 재료 설명해주시고 ㅎㅎ
(翻訳) 気さくなおじいちゃんが一人で切り盛りしていて、入店してすぐに注文して席に着きます。清潔感があり、温かみのある雰囲気の店内は広くないこじんまりとした空間で、セルフシステムなのでメニューが出たら呼んでくれます :) 英語も適度に交えながらコミュニケーションに努め、余裕のある笑顔! おやつに食べるパニーニを選ぶと、入っている食材の説明をしてくれます(笑)

旅行市場のデモグラフィック（demographic：人口統計学的な属性）な処理による旅行者像をみたく旅行商品を用意して、そこに旅行者の要望を擦り合わせて行くものであった。

しかし、上で述べた“コトの消費”や“旅行のナラティブの共創と伝播”は、旅行者や観光地から見れば近代観光と似ているとしても、観光の本質である“旅の面白さの説明と旅行の実施”が旅行者の役割に置き換えられているのが大きな特徴なのである。これは、観光産業の範囲が SNS などのインターネットコミュニケーションによって拡大されていることを意味することになる。

同時に、近代観光では旅行する“観光価値”が、旅行者によって作られ販売された。例えば、“紅葉を観て蟹食べ放題の旅行に行きましょう”と誘って（広報）くれていたのであるが、それが今でも少し残るとしても、多くは個人どうしの情報交換や観光産業の側から個人向けの情報提供に移行する事となった。類似の状況はオンラインサイトでモノを買うと、暫くすると AI によって判断された類似商品やサービスが紹介されて来るのと似ている。このような流れの中で、旅行者は一部に近代観光を残しながらも OTA (Online Travel Agency：オンライン旅行代理店) を通じて範囲を拡大する結果となった。また、観光地の産業はイールドマネジメントなど (yield management や revenue management) の手法を用いて混雑と収益のバランスを採るようになった。そして、“賢く旅を楽しむ旅行者 (smart traveler)” は、SNS などや公開されている価格情報などをもとに、より自分の希望に近い旅行を創り出すことが出来るようになってきているのである。

近代が終わり、DX が進む現在を旅行する観光者にとって重要なのは、観光産業や観光地がより自分に合った旅行情報を提供してくれることである。その為に観光産業や観光地は、平均値としての観光志向ではなく、顧客に接近し個人化した情報をどのように創り、サービスを提供するかが重要視されるようになってきたのである。

その目的でかなり前から利用されているのが“CRM



図1：個の影響力の拡大

<https://www.nttdata.com/jp/ja/services/information-bank/>

(customer relation management)”である。多くの企業あるいは企業群で用いられている手法で、顧客の同意を得て個人情報を一元管理してより適切な情報・商品・サービスの提供を行うシステムである。

CRM を利用することによって、産業側はデモグラフィックなデータよりもより個人的な関係を利用者（観光者）との間に創り出すことが、出来ることになる (One to one marketing)。それは2者関係あるいは小グループを基準とする SNS 上の相互関係に、より近づくことを意味するのである。

観光産業（生産・供給側）のサービスの多くは、サービスの生産過程への観光客等の参加（共創と言う、利用・消費が生産と表裏一体と言う意味）があつて生産が成立するものである。そうすると、実際はCRM を超えてより高次化する為には必然的に多次元的な共創的関係の構築が不可欠となる。特に観光者数が多くなる場合、観光資源や生活資源の持続性の確保は大きな課題となり、イベントや観光地の維持管理への観光客の参加も観光を高次化する重要な方策となる。このような共創によるサービスや観光基盤の維持と高次化は、観光客を単なる“客”ととらえていたのでは不十分となる。“客”を超えて「消費者のエンパワーメント」の視点から、観光者の能力と役割の向上は重要な課題となる。

その為には、個人が共創の為に個人情報の提供を了解できる仕組みを CRM の先に、公的に構築する必要がある。それが「情報銀行」と言われる基盤領域の構築であり、世界的に観光のマネジメントの重要な課題とされている。

3. 人口問題のフロントラインと観光事業

観光者側も観光産業や観光地側もDXによる革新を進めることは重要な今後の方向のひとつである。

ただ、現実問題としてDXを進めようとする時に遭遇する大きな問題がある。それが人口問題である。人口は九州に限らず全国的に今後減少すると推計されている。経済先進国や日本の近隣諸国でも同様に人口減少が予測されている。2020年を基準に50年後の2070年には総数で25パーセント減ると見込まれているが、その時の問題は人口高齢化と同時に起こるとされている33%生産年齢人口の急減である(国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」から算出)。

人口は都市へ集中する傾向を持つため、地方の多くの観光地では、人口減少による労働資源の急減は、観光産業の人的資源の不足を急速にもたらし、さらに観光地を支持する地域社会の存続を危うくしてしまうのである。本誌140号(2021年10月)櫻井恵介「進む観光地の年齢構造の転換」では、九州の主要観光地における従属人口指数の推移を示している。それを見ると指数がすでに県の平均を上回っている(値が高いと、生産年齢人口が他の人口を支えられなくなる)観光地自治体が多いことがわかる。地域の生産年齢人口の減少が、観光地の維持にとって深刻な課題となる兆候がすでに現れているのである。

この兆候は近代観光、それも大衆観光志向であった観光地にまず起こると考えられる。その兆候が生

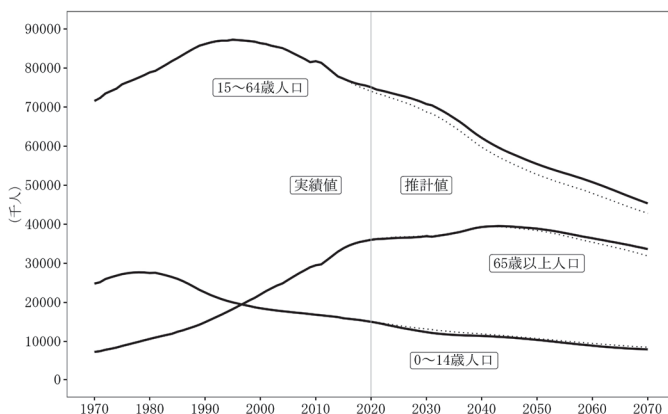


図2 年齢3区分別人口の推移(出生・死亡中位推計)
※破線は前回中位推計
<https://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2023/pp2023-ReportAllc.pdf>

じることへの対策としてよくあるものは、業務のスリム化などを行うことで労働資源の削減と人的サービスの質の低下を促すことであるが、懸命策としてこのような合理化を進める企業が増えることになっていくことで観光地の魅力減に繋がるおそれがある。近代観光型のサービスにおいては、合理化した資源による業務多様化を進めるのが策の一つである。それをDXにより進める必要があるが、管理労働を行う人的資源や現場の労働資源が高齢化していたり質が低い場合、次第に多様化を促す革新も難しくなっていく。

九州においてもこのような傾向にある企業を抱える観光地もすでに生じている。

民間の研究集団である人口戦略会議は、2024年4月に「令和6年・地方自治体「持続可能性」分析レポート」を公表した。同レポートでは全国の自治体の人口推計結果から「消滅可能性自治体」に該当する自治体を示している。九州については、日本放送協会が同レポートをもとに作成した図3を見ると観光地との関係がわかりやすい。明らかに九州中部や辺地の自治体に「消滅可能性自治体」がみられる。これらの地域の多くでは自然景観や温泉などを資源とする近代型観光施設を擁しており、人口問題の影響を受けることが窺われる。

これに対抗するには、単純に考えれば、まず、①全九州規模あるいは全国規模で経営展開が可能な能力を有する企業でありCRMがしっかりしていて顧客のある企業であること、②家族経営のような極小規模で専門性(クラフトマンシップ)の高い企業等であること、そして③維持管理やサービス創造に来訪者が強く関わる(サブスク型、あるいはボランティア等)共創に対する方向性と能力をもつ組織等が必要であろう。

さらに、これらの中で②③に共通の特性として、本誌146号(2022年4月)拙著「個人化」社会における「田舎ぐらし」：ライフシフト、多様性、再帰性との関係」に述べた、ある程度「個人化」を容認する農山漁村社会あるいは商店街等における、DXによる「田舎ぐらし」共創型の魅力開発がある。そこでは、例えば移住者

のようなライフシフトによる生活創造、女性グループや家族による小規模宿泊施設や飲食店などの経営による“伝統的な施設や文化そして自給的な生活を現在の生活に繋ぐ”「再帰性の創出」が大切な考え方となってくる。

人口減少などで自治体の持続力が衰えている地域の観光事業は、上記①でないかぎり“大きな投資による活性化”の担い手となることは難しい。地方市町の中心市街地のように多様な業種業態を受け入れることができれば良いが(九州の事例では日南市など)、それでもIT企業などは賃料などに敏感で入れ替わりが激しいという。装置型で対面性の強いサービス産業である観光産業が、②や③において立地変更を試みるのは容易ではない。そこで地域にある資源を活用してDXを使い共創化の機会を創り出して行くのが一つの妥当な選択肢となりうる。

4. 人口高齢化における共創

人口問題の一つである“高齢者問題”は、団塊の世代が高齢化することを原因として、①“人口オーナスと経済縮小”や、②さらに生産年齢人口の減少による“地域社会を維持する人口バランスの崩壊”があげられている。

本誌144号(2021年10月)拙著「高齢化・人口減少と社会のデジタル化：世代論との関係で見る人口オーナスへの視点」において団塊の世代とミレニアム世代やZ世代がデジタル世界を通じて関係しているかについて検討した。

まず、団塊の世代が高齢者となることで生じる人口オーナス現象の中で、彼らがどのようにコンビビアル(convivial:共に生きる)な生活感を得ているかをテレビ番組の事例検討から明らかにした。その上で、団塊の世代が、理念的に“懐かしさを覚える”イメージ(「廃墟」「廃村」「田舎暮らし」)を巡るSNS世界の取り扱われ方を検討して多世代の扱い方と連携について整理した。

その結果、ミレニアム世代やZ世代において、団塊の世代が懐かしさを覚えるイメージの中で「田舎暮らし」に新しい意味を多様に付加させながら、彼ら世代もコンビビアルな生活感を構築する為の記号として用いていることが判ってきた。このことを本稿の

初めに戻って考えるならば“コト”や“ナラティブ”の中に世代間を横断する形で特定の事柄(事実、古民家や地域の食など)が意味(シニフィエ:signified)を修正しながら登場することが示唆される。

観光DXを仕事のデジタル化としてのみ限定せずに、社会を動かす理念やシステムを変える活動と考えることにより、人口問題を創り出し社会を分断しているように見える社会構造を新しい次元へと拓くことが可能となる。観光は、行く側も受け入れる側も多様な関係を有するシステムであり、そこを変える発想を持つ事で新しい力となる可能性は大きい。

5. 再帰的近代(レトロ)の埋め込み方

古民家を改装して移住する人々、我々はそのような人々を「移住者」と呼んでしまう。すでに居住者という概念があるにも関わらず“よそ者を受け容れている”という態度が透けて見える用語法である。

しかし、視点を変えれば古民家に居住する為に越して来ることは、リサイクルであり、文化の継承発展であり、サーキュラーエコノミー(Circular Economy:循環型経済)活動の一角でもある。はっきりしているのは過去のモノを現在に活かし、新しい意味を付与しながら資源利用を少なくしていこうという活動であると言うことである。

現在も使われている宗教施設を、伝統的な建築物として研究や観光に用い、その結果を応用して新しい建築物が造られたり、見学者の美意識が向上したり、観光経済効果が派生させるようなサイクルが新しく創られる価値は大きい。

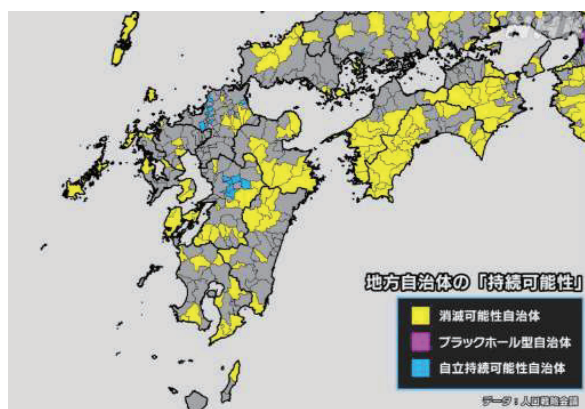


図3:「消滅可能性自治体」の位置(NHK資料による)
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240424/k10014431611000.html>

「田舎」は差別語として使用法に注意が必要な言葉であるが、「田舎暮らし」というと羨望が寄せられる言葉となってそこに人々は集まってくる。「田舎暮らし」が SNS で発信されたので、それを見る人が増えコメントが寄せられてコミュニケーションの場が生まれた。

このような新しいシステムや話題に過去の概念や物材やサービスを取り入れることを「埋込 (embed-ness) 利用」と言い、過去の事柄に注目する時には「再帰的利用」などと言う。観光の分野では、観光資源の利用の一つとして、過去の文化財やサービスなどの利用がある。それによって再帰的利用は進むがそれを埋め込むシステムが、古くなっていたり接合が上手くいかなかったりしていることが少なくない。

その理由は、近代観光のシステムにあることが多い。観光ガイドに掲載し、利用者はそれを見て来訪すると言うような一方的な仕組みに依存しているケースが多いからのように思われる。

本稿ですでに述べた“都市内の古い住宅街で営業するカフェで中高齢の女性グループが団欒する隣で韓国人の若い女性グループも団欒している”と言う場面は、明らかに両者とも埋込型サービスの利用者であることに違いない。＜団塊の世代やそれに近い人たちがレトロ空間を利用（サードプレイス利用）＞・＜20歳代の外国人女性が SNS で紹介された日本のレトロ空間を利用＞のように同じ空間を、新しい現在の社会的レトリックが生み出す異なる意味（シニフィエを変更）で利用するところに注目する必要がある。このカフェに旅行ガイドに掲載するからと掲載料を請求する出版企業はないだろうし、カフェの前に長い行列が出来ることもないに違いない。

現在使われている（流行の）意味空間と過去の対象（シニファン）を繋げる技に観光 DX が創り出す観光の新しさがある。

6. まとめ

九州で観光を考えると、来訪観光者数、経済効果、新しい施設開発に注目しベンチマーク的にとらえる方法がいまだに一般的である。自治体の観光計画では今でも KPI は前期を大きく下回らないよう設定することが、慣例化している。これは間違いで

はない。しかし、人口の少ない自治体では従来の規模と質で観光産業を維持できないところも増えていくに違いない。一方で福岡市など大都市でも高齢化は進行し、近代型の観光需要は減じる可能性は高い。そうすると新しい方法を検討しなければならなくなる。

そのような中で、デジタル化を通じて観光全般を革新する観光 DX が必要となってくる。一つは、観光情報をより個人に最適化したものとして提供できるようにすることで従来 CRM からより広範領域でシェアする仕組みへと革新することである。実はそうすることで、施設やサービスごとの利用からナラティブに沿ったサービスに転換することの可能性が上がることになる。しかし、他方で生成 AI が示すようにデジタル処理と人が行う創造的な問題解決は必ずしも一致しない。さらに、もし個人最適情報創られたとしても人はそれを楽しむためにリアルを自分で創ることを好むかも知れない。

そのために、DX 空間の創造は同時にその境界における人々の参加が大切になってくる。将来は、観光者が供給側をコントロールするという関係性 (VRM: Vendor Relationship Management) へ変化する可能性があり DX はそちらへ展開する。

本稿では、そのポイントを理解する方法として「再帰的創造」機会の提供とそこでの観光者と事業者の共創行為の理解方法を提示した。この観光 DX のフロンティアでリアルな共創状況を捕まえることは人間行動の分析と言語学そしてデザインの手法を不可欠としている。人口問題がさらに進んでも理解する対象は、時間と共に増えるので、ベンチマーク手法とは異なった手法となる。

そうすると文章のタイトルも「九州の観光を考える」と言う＜中央・地方＞的視点から、本稿のタイトルである「九州“で”観光を考える」と言うように視座が変更してくることとなるのではないだろうか。

（むらかみ かずお・やまべ しんいち）

川内大綱引きを見てきました

宮川 武大

私の地元である鹿児島県薩摩川内市は令和6年10月に市政20周年を迎え、それに伴い、いくつかの記念事業を行うなど、盛り上がっていました。そのような中、地元を代表するお祭りである「川内大綱引き」が9月22日に行われたので、見に行ってきました。地元を代表するお祭りですが、実をいうと私自身は、見に行ったことがありませんでした。中高生の頃は、学校から「危険なので行く場合は保護者同伴で」と通達があり、なかなか行く機会がなく、25歳になって初めての見学でした。

●川内大綱引きの歴史

川内大綱引きは慶長に始まったとされており、一説によると、第17代島津義弘が関ヶ原の合戦の際に、兵士の士気を高めるために始めたもので、400年以上の歴史があると言われていています。令和6年には国の重要無形民俗文化財に指定され、指定後初の開催という事で、より一層、盛り上がっていました。

川内大綱引きは当日の朝から地域住民や学生などが集まり、綱を作る綱練りから始まります。綱練りで作成する綱は、長さ365m、直径70cm、重さは約7トンになると言われています。私自身も高校生の頃に、この綱練りに参加した思い出があります。そんな大きな綱を使い、約3,000人の参加者で綱引きを行います。

●川内大綱引きのルール

川内大綱引きのルールも普通の綱引きとは違っており、ダン木と呼ばれる中心を境に上方(赤)と下方(白)に分かれ、押し隊、引き隊、わさ係の3つの部隊を編成します。そのうち、押し隊は綱の中心部で、相手の体制を崩すために押し合い、引き隊は、綱を引くのはもちろん、綱に乗って動かないようした



引用：川内大綱引保存会HP



綱引き開始後の押し隊の様子



終了後に綱に座り談笑する人々

りします。わさ係は、綱を相手側に引かれ、形勢不利となった際に、綱の最後尾にある「わさ」と呼ばれる輪っかを、中心部にあるダン木に掛けることで、それ以上、綱を引かれないようにします。そうすると、負けている方は作戦を練り、反撃に転じ、その攻防を繰り返します。双方が力尽き、綱が動かなくなったら、審判が綱にのこぎりを入れ、勝敗が決定するそうです。

●実際に見学してみても

当日は朝から雨が降り、天候が悪かったのですが、綱引きが始まる頃には、強かった雨は止み、天候に恵まれながら見学できました。実際に間近で見ると、参加者と見学者どちらも熱気がすごく、特に押し隊がぶつかり合う中心部は熱気と迫力がすごく、圧巻でした。

参加者達は上裸にさらしを巻き、地下足袋と空手ズボンを履いており、そんな恰好をした男たちがぶつかり合うその様から、昔は「けんか綱」とも呼ばれていたそうです。実際に参加する人の多くは、知り合いから勧誘されて参加するため、友人・知人も多く参加しておりました。

勝敗結果として、一昨年は途中で綱が切れ、引き分けとなっていました。昨年は下方(白)が綱を引き切り、勝者となりました。今年は、誘われる機会があれば、気合を入れて参加してみたいと思います。

(みやかわ たけひろ)

近況

総 観光産業への期待

観光業の労働生産性は、他産業と比べて低い傾向にあると言われる。宿泊業で全産業平均の4割、飲食サービス業では6割にとどまっているという。賃金が低いことや労働環境が厳しいこと、人手不足などの問題が指摘されている。であれば、労働生産性を上げて、賃上げをし、働きたくなる環境を作れば、雇用の改善も期待される、という背景のもと、日本の観光業界で様々な取組みが進められているのは、周知のとおりである。

近年、過疎地や中山間地などで、観光客向けの体験サービスなどにおいて、参加型体験、ボランティア体験等、現地の農漁林作業に有料で参加するなどの取組みも行われている。これらは、GNPで測るような生産ではないが、観光客の需要は満たされているのであるから、地域の基盤を利用した新たな観光サービスともいえる。

では、外国の観光産業はどうか、数値でしか表せないが、OECDデータベースより、主要国でのGNPに占める直接的観光産業のシェア、観光産業で働く雇用者比率をみてみた。

各国とも2020年の数値がコロナ禍により低下しているようなので、コロナ前の2017～2019年、2010～2012年の平均値をみてみた。

日本のGNP比率は、2%程度だが、雇用比率は10%に近い。オーストラリアはGNP比率約3%で雇用比率は約5%、と生産性が日本よりも高い。さらに、スペイン、フランスにあっては、GNP比率に対して、雇用比率は若干高いもののほぼ同程度の比率

観光産業の生産、雇用の状況

単位 %	2010～12		2017～19	
	GNP 比率	雇用 比率	GNP 比率	雇用 比率
Australia	2.7	4.6	2.9	4.8
France	7.5	7.1	6.2	7.5
Japan	1.7	6.9	2	9.4
Spain	10.5	11.7	12.3	13.6

資料：OECD Data Explorer より作成

である。

観光産業において計測される生産性にはかなりの違いがあるようである。直接的には、この生産性を高めることが、観光産業の所得、雇用改善につながると思われるが、日本の持っている観光基盤を活用するという点では、観光客の新たな需要に対するサービス提供にも期待したい。

ここ数年の受託業務の分野で、観光に関係する業務件数は増加し、基礎となるデータ整備も徐々に進んでいる。インバウンドの動向をみる限り、国内の観光産業もGNPに占める比率は確実に増えていくであろう。

ただ、観光客を受け入れる地域で、観光消費額の拡大によって地域の所得を向上させるというだけでなく、地域を維持するという視点から、文化的、歴史的な資源をうまく利用することは必要である。それは観光客の新たなニーズに応えるサービスを創造できるかどうかである。それが提供できれば、過疎化、人口減少に対する担い手の確保など、これからの取組みにも効果が期待できる。

観光DXなど、人手不足に対する生産性の効率化も必要であるが、地域を維持するという視点から、観光資源を利用する方策は、まだまだいろいろな可能性があると思う。(山辺 眞一)

総 八女市上陽町芋焼酎プロジェクト

～第15回収穫祭～

八女市上陽町芋焼酎プロジェクト(以下「本プロジェクト」という。)は、上陽町の休耕地を活用し、地元と都市住民と一緒に原料となるさつまいも(コガネセンガン)を植え、焼酎づくりを行う取組みです。この焼酎「環(かん)」の販売収益の一部を「地域の豊かさ基金」として積み立て、八女市や上陽町のまちづくりを応援する助成金として活用しています。これまでに下記の3団体に寄付をしています。

令和元年：上陽町にある小中一貫校「北浜学園」のゴルフ部
 令和2年：主に八女市・筑後地域をフィールドに活動している太鼓演奏集団「童衆」
 令和3年・上陽町の交流人口・関係人口づくりのため、村歩きをしている団体「さるこ会」

本プロジェクトでは毎年11月に収穫祭を行っていますが、今年は15回目の収穫祭という意味では、節目の年であったと思います。

収穫祭には2011(平成23)年から毎年、(株)デンソー・ソリューションのボランティア有志の親子が30～40数名が参加してくれています。収穫祭では、子ども向けに「大きな芋堀コンテスト」を実施しています。勝負にこだわる子どもは必死に大きい芋を掘り、受付に何度も持ってきます。今年は、1.6kgの芋が一等賞を取りました。

思えば、当時5歳で参加してくれた子供が、今年は成人を迎えます。よくも15年も活動が続けられたことに驚くばかりです。この活動が継続できたのも地元で畑の世話をしてくれる人、会計を担当してくれている人、芋を焼酎にしてくれている酒造所(黒木町:後藤酒造所)、その他多くのボランティアの人々の力の賜物です。

私も第1回から参加し、第10回から実行委員長を拝命し、マルチ張り、苗植え、草取り・虫取りなど年に3～4回は上陽町に出向きます。

設立当初、焼酎「環」は千本近くの売り上げがありました。最近では300本から400本程度と売り上げも低迷しているため、今年はPRのためHPの充実を図り、売上げ増を目指しています。地元で世話をしていただけの人がいる限りは継続していけると思っています。しかし、メンバーも正直、高齢化しているため、どこまでこのプロジェクトが続けられるかはわかりませんが、できる限り続けることができ

ばと思っています。

この活動に賛同していただける応援団員を募集しております。焼酎好きな方、少しでもボランティア活動してみたい方は、是非、一度、芋づくり、収穫祭等に参加してみませんか？

参加希望の方は「よかネット山田」までご連絡ください。

■あなたも「環」の応援団員になりませんか？

<応援団員の資格>

- ・年齢、性別、国籍は問わず。こよなく焼酎を愛する人
- ・汗を流す時間はないが、地域貢献をしたいと密かに思っている人。
- ・参加費なし

<応援団員への期待>

- ・1年に最低1本「環」の購入。応援団員の拡大、「環」のPR
- ・取り扱ってくれる居酒屋等の紹介
- ・畑の手入れ、芋苗植え等への参加

<応援団員の特典>

- ・収穫祭の参加
- ・特別価格販売のご案内(1600円を1500円)

■芋焼酎「環」

○購入できるお店

【ダニエル・イノウエミュージアム】

住 所：八女市上陽町北川内 589-2

TEL：0943-54-2150

【大洋産業株式会社】

住 所：八女市黒木町黒木 25 番地

TEL：0943-42-0052



第15回八女市上陽町芋焼酎プロジェクト
収穫祭、参加者全員で記念写真



子どもたちと一緒に、楽しんで芋堀しています

【アンテナショップ八女本舗】

住 所：福岡市中央区渡辺通 5 丁目 23 番 8 号
サンライトビル 1 階

TEL：092-725-0161

【クマノス】

住 所：八女市亀甲 256-1

TEL：094-343-5208

○味わえるお店

【おなか居酒屋まんまる】

住 所：久留米市六ツ門町 17-21

TEL：094-230-3110

【モンブラン倶楽部】

住 所：福岡市中央区天神 3 丁目 4-5

バッカス館

TEL：092-751-2403

(山田 龍雄)

森 アドベンチャーツーリズムの商品開発

●松前町の幅広い分野の政策立案・実行を支援

北海道松前町は、北海道最南端に位置する町で、北海道に唯一存在した藩である「松前藩」の城下町を有する。町を代表する特産品は「松前漬け」で、主要産業はマグロやイカなどの水産業だが、気候変動の影響も受け、漁獲量は大幅に減り、2000 年に1万人を超えていた人口は、現在約 6,000 人と急減している状況である。

一方で、近年、町と協定を結んだ東急不動産㈱が運営する大型の風力発電のほか、小型風車も加えると、約 90 基以上の風力発電が稼働しており、北海道唯一の洋上風力整備の政府公募が始まる見込みで、今後注目が増すと予想される。



白神岬から竜飛岬を目指すヒヨドリの群れ

2022 年度から、ネットワーク会社であるアルパックが、町の持続可能なまちづくりや DX 等に関する計画策定に関わり、2023 年度以降はエネルギー政策や一次産業、教育、移住支援等の幅広い政策分野の実行を伴走支援している。

私は観光・物産関連を中心に携わっており、観光客の人流・顧客動線や町内事業者のニーズを踏まえたターゲット設定、町の SNS や、観光公式ホームページの構築・運用・効果検証支援、観光物産協会の立ち上げ、観光資源発掘・商品開発・モニターツアー同行など、観光まちづくりの幅広い分野に関わる機会をいただいている。

その中の観光商品開発のテーマの一つが、北海道南部地域（道南）の自然・文化を活かしたアドベンチャーツーリズム（AT）の商品開発である。

●アドベンチャーツーリズムとは

観光庁によると、AT とは「自然」「アクティビティ」「文化体験」の 3 要素のうち、2 つ以上で構成される旅行を指す。欧米圏で発達した体験型観光の一つであり、市場規模は 62 兆円と推計されている。宿泊・飲食・移動に加え、アウトドアガイドや装備の購入・レンタル、保険加入など、幅広い分野への波及が期待され、旅行消費額は通常旅行者の 2 倍とされている。

北海道は豊かな自然環境を有するため、AT 推進の機運が高く、世界最大の商談会であるアドベンチャー・トラベル・ワールドサミットが 2023 年 9 月に開催された。また、北海道観光振興機構が「観光地域力強化推進事業」として、AT の観光商品開発



船釣りは初心者の私でも、船から竿を垂らすと毎回何らかの魚が釣れた

に助成をしており、松前町は、この事業に採択された。

●まず最初に地域の歴史・立地・風土を俯瞰的に説明することが重要

松前町にある北海道最南の白神岬から竜飛岬までは津軽海峡を渡る最短ルートの一つであり、多くの渡り鳥が飛来する。

また、暖流である対馬海流と寒流のリマン海流、津軽海峡を東から西に吹く山背による海流など、様々な海流がぶつかる良質な漁場で、マグロやソイ、ホッケなどの様々な魚を釣ることができる。

さらに、北前船の最終寄港地として、昆布、ニシンなどの海産物の交易で栄えた松前藩の食文化は、今に受け継がれ、町の温泉旅館では「藩主料理」をいただくことができる。

これらのATの商品開発に関して、北海道宝島旅行社の菊池執行役員がアドバイザーとして参画している。菊池さん曰く、「ATの行程では、まず最初に町の一番高い場所・見渡せる場所に案内し、立地や海流、風、自然環境、歴史など、鳥瞰・俯瞰して説明することが重要」とのことである。

これから松前町には、風力発電関連で企業や学校の視察や教育旅行が増えることが予想されるため、これらの一つ一つの体験について、旅行前に学習するための資料や、現地で地域の方々が説明する際の「語り」の基礎情報を整備し、旅行後に学びを深めるための「議論」のフォーマットを整備しているところである。

さらに、こうした松前町ならではの生活文化をイン



14代松前藩主の婚礼祝膳を再現した藩主料理(クジラ、ニシン、イクラ、松前漬けなど)

スタグラム、LINEなどのコンテンツとして編集し、発信している。

ここまで現場に入る仕事は少ないため、最前線の現場で使うツールの情報を日々アップデートする必要があり、北海道の海に潜り、険しい山を登り、仕事を通じて新鮮な体験、多くの学びを得ていると感じる。

最近は観光データに関する調査業務が多く、現場の商品開発の仕事は少なかったが、ATは、もともとの自分の趣味に近く、社会的な機運・ニーズも高い。今年も多くの現場で経験を積み、地域の魅力を活かした商品開発の技術を磨きながら、各分野・各地域のプロフェッショナルとのネットワークを広げることができればと思う。(原 啓介)

総 2024年の振り返りと2025年の抱負

2025年を展望するにあたって、2024年を振り返ってみたいと思います。まずはプライベートから振り返ります。

●長男小学生になる

早いもので長男が小学生になりました。もう、生まれて6年も経つのだなと思います。入学当初は、大きなランドセルを背負って、おぼつかない足取りで登下校していましたが、体格もグンと大きくなり、ランドセル姿も様になっています。2年生、3年生と比べても遜色ありません。自分のペースで健やかに成長してもらいたいなと思っています。

●体の不調を感じる

去年は、大厄ということもあってか、どうも不調を感じる事が多くありました。「お酒の呑みすぎかな」ということで酒量を減らしたり、「食べ過ぎかな」ということで、食べる量を調整したりしました。人間ドック以外にも、血液検査を受けたり、エコーを撮ってもらったりもしました。検査結果は、いずれも良好で「心配ない」とのお墨付きも頂き、ホッと一安心です。とはいえ、健康が一番ですので、体調管理はしっかりしていきたいと思っています。

●魚釣りにハマる

長男が日々一緒に学校に行くお友達が魚釣りをするというので、我が家も魚釣りを再開しました。私も親に連れられてよく釣りに行っていましたが、子ど

もが生まれて何回かは釣りに行ったのですが、しばらく間が空いていました。道具を一式揃えて月に1回ペースで釣りに行っています。長男だけでなく、長女も好きなようで、釣った魚で食べられるものはしっかり食べる。「食育」にも良いなと思っています。今しばらくは釣りブームが続きそうです。

●車のバンパーが大破

大破した写真を見た時は、「ああ、これは買い直さないといけないな」と思いました。車を駐車しようとしたときに、標識の柱に当たったらしく、フロントバンパーが外れていました。いつもお世話になっている車屋さんに持っていったところ、「はめて直すことができますよ」とのこと。なんでも今の車のバンパーは、全体が外れるように出来ているとのこと。誰も傷つくことなく、車が壊れただけで、そして、修理で済んで本当に良かったです。

●左足の薬指を骨折

この原稿を書いている時点では、まだ、テーピングをしています。

8月末に、業務の一環でワークショップをした帰りのことでした。靴を履こうとして、足を靴に入れた瞬間、少し体勢を崩したのですが、どうもその時に体重がのってしまったようで、薬指を折ってしまいました。

最初は突き指だろうと思っていたのですが、時間が経つにつれて痛みがひどくなります。次の日になっても痛みが治まりません。そこで、整形外科に行き、レントゲンを撮ってもらったところ、「ああ、きれいに折れているよ!」とのこと。レントゲンを見ると、素人目で見てもクッキリと折れているのが分かります。1ヵ月ほどはギブスで固定し、痛みが引いてきたところで、それ以降は、テーピングで固定して過ごしています。日常生活には全く支障はないのですが、「まだ治りが悪いなあ」とのこと、テーピングは今しばらく続きそうです。

次に仕事を振り返ります。2024年も多くの仕事に関わらせて頂きました。

●こども計画に携わる

「こどもまんなか社会」の実現に向けた市町村こども計画の策定に関わる機会を頂きました。ちょう

ど、「子ども・子育て支援事業計画（以下、支援事業計画）」の見直しの時期と重なっていたため、福岡県内では、それとあわせて策定するところが多いようです。今、関わらせて頂いているところも、支援事業計画と一体的に策定をするということで進めています。

こども計画は、支援事業計画以外にも、「子ども・若者計画」や「子どもの貧困対策計画」などと一体的に策定することができ、これらを統合して策定しているところもあります。「こども大綱」や「福岡県こども計画」などとの整合を図りながら、引き続き策定のお手伝いをしていきます。

●人口減少下において人口が増加している地域の人口ビジョン・総合戦略づくりに携わる

日本全体では人口減少、少子高齢化が進んでいるわけですが、一部の地域では、人口が増加し、少子高齢化が緩やかに進んでいます。このような地域の人口ビジョン、総合戦略づくりに携わる機会を頂きました。

普段の思考（人口減少を如何に抑制するか）とは逆の思考（人口増加の流れを如何に継続させるか）をしないとダメです。ただ、基本は「いま、住んでいる人が、如何に幸せに生活できるか」にあると思っていますので、そこに軸足を置きながら、担当の方と方針や施策を検討しています。

悩ましいのが、どうしても「20代～40代の子育て世帯」を念頭に置いてしまうこと。おそらく、どの自治体もこの層をターゲットとして、戦略づくりに取り組んでいると思います。この層に対する補助金バラマキ合戦ではなく、ニーズをしっかりと捉えて、それに応えていけるような仕組み・体制づくりができればと思います。

●過疎地における地域コミュニティの見直しに向けた業務に携わる

一方で、過疎地における業務にも携わる機会を頂きました。

人口減少、高齢化が進む中で、「担い手不足」「参加者不足」「活動のマンネリ化」「活動の中止・縮小」などは、どのような地域でも言われていることですが、過疎地は、そもそもの人口が少ないこともあっ

て、集落の存続に直結します。住み慣れた地域で生活を続けるために、如何に地域活動を持続させていくか。そのためには、地縁のつながりだけでなく、「一緒に地域活動をしたい」「地域を応援したい」という志縁のつながりも取り込んでいくことが考えられます。

これから、地域の色々な人・団体の意見を聞いて回ります。お話を伺う中から、具体的なことを考えていきたいと思います。

これら以外に、2024年も様々な機会を頂きました。引き続き、よりよい地域を目指して取り組みます。

●健康第一に

さて2025年ですが、業務の軸足は、地域コミュニティや総合計画・総合戦略におきつつ、「防災・減災」や「こども」という部分に関わっていければと思っています。

「防災・減災」は、地域における活動の支援が中心になるかと思いますが、自治会や自主防災組織でどのような活動であれば、無理なく続けられるのかを模索したいと思います。

「こども」は、行政計画づくりが中心になるかと思いますが、国の「こども大綱」や「こどもまんなか実行計画」に記載の内容について、市町村でどこまで具体的な施策・事業に落とし込めるのかを模索したいと思います。

これらに限らず、もちろんご相談を頂いた案件は、やれることをしっかりと提案し、関わっていききたいと思っています。

プライベートは、昨年、体の不調を感じたこともあるので、過去数年の目標から一步踏み込んで、今年は70kg台を目指します。そのためには、運動が欠かせないのですが（運動はそこそこ好きです）、その時間を確保できていないので意識して取り組みます。

最後に、いつも、支えてくれている家族みんなへの感謝を忘れずに、この1年も、諸先輩方、仲間みなさん、よろしくお祈りします。

(山崎 裕行)

🌀 新たな路地裏飲食店を見つけました

●その店は突然、眼前に

博多旧市街を歩いている時、今まで存在を認識していなかった路地を見つけました。「こんな路地があるなんて」と驚き、歩いてみました。

幅は2.5mほど、距離にしてわずか100m足らずですが、気になる飲食店が3店、しかもそのうち1点は看板も出していないため、「飲食店だろう」と推測しながら、ネットで検索したところ店名、webサイトやSNSが確認できました。

●1年半以上、予約でいっぱいの人気店だった

気づくまで全く存在を認知できていなかったお店ではありますが、にわかになりに始め、行ってみたい気持ちが湧いてきました。

行くためには、まず予約が必要です。予約方法は受付日にのみwebサイトで受け付けを行うというスタイルです。その受付日は、決まったらインスタグラムで情報を流します。しかも令和6年10月時点で、令和7年分の予約は完了していました。令和8年の受付日は、令和6年12月現在未定です。

席数はカウンター9席（その他に個室もあるらしい）で、食事の開始時間は18:00に一斉スタートと決まっています。遅れたら、到着した時点のお料理からの提供となっています。

これだけ見ても、なかなか個性的なお店であると心がざわつきます。

●思いきって、行ってみることにした

価格はかなりのハイレベル設定です。お料理27,500円、ペアリングで11,000円（ともに税込）。



路地をのぞいてみたところ

しかしながら、もし予約が取れても少なくとも1年半後であることから、貯金しながら受付日決定の情報を待つことにしました。

●受付日の情報を心待ちにしている

これまで、あまり活用しているとも言えなかったインスタグラムですが、目的ができたので俄然やる気が出てきました。2日に1回は確認するようになりました。

●今年の成果見込

ということで、今年の成果として「予約できた」、「予約できなかった」あるいは、もしかしたら「そもそも予約受付がなかった」等、何らかのご報告が来年のこのコーナーでできるはずです。

ちなみに肝心の店名ですが、看板を出していないことに配慮して記載を控えさせていただきます。所在地は、福岡市博多区奈良屋町です。

●去年の心残り

本来、去年は西条の「酒まつり2024」に行き、本紙面で報告をするはずでした。しかし、家庭の事情で出かけられず、今年以降に持ち越しです。

今年こそはチャレンジし、合わせて皆様に御報告したいものです。

今年もどうぞよろしく願いいたします。

(福吉 聡子)

🔗九州の動物園、どんな動物がみられる？

子どもが生まれたのをきっかけに、動物園に行く機会が増えています。各園創意工夫を凝らした展示をしており、大人も子どもと一緒に楽しんでいます。

今回は、九州7県の動物園において飼育されている動物に着目してみました。なお、今回対象とした動物

表1：対象とした動物園

園HP掲載名	日本動物園水族館協会HP掲載名	所在地	所有	開園(前身含む)
到津の森公園	到津の森公園	福岡県北九州市	北九州市	1932
福岡市動物園	福岡市動物園	福岡県福岡市	福岡市	1933
大牟田市動物園	大牟田市動物園	福岡県大牟田市	大牟田市	1941
久留米市鳥類センター	久留米市鳥類センター	福岡県久留米市	久留米市	1954
海の中道動物の森	海の中道動物の森	福岡県福岡市	国	不明
九十九島動物園森きらら	九十九島動物園	長崎県佐世保市	佐世保市	1961
長崎バイオパーク	長崎バイオパーク	長崎県西海市	民間	1980
九州自然動物公園アフリカンサファリ	九州サファリ	大分県宇佐市	民間	1976
熊本市動植物園	熊本市動植物園	熊本県熊本市	熊本市	1929
宮崎市フェニックス動物園	フェニックス動物園	宮崎県宮崎市	宮崎市	1971
鹿児島市平川動物公園	平川動物公園	鹿児島県鹿児島市	鹿児島市	1972

物園は、公益社団法人日本動物園水族館協会に加盟している11園を対象としました。(表1) また、飼育されている動物は、同協会のHP内飼育動物検索にて確認できたものをリスト化したため、各園の最新の情報とは異なっている可能性があります。

●何種類くらいの動物が飼育されている？

飼育されている動物の種類を集計したのが図1です。種類が最も多いのは「熊本市動植物園」で164種(学名ベース)でした。その要因として、その他に含まれる条鰭綱や軟甲綱といった水生の生物が多く展示されていることが大きくなっています。その種類をみると、淡水生物が多く、動物園が江津湖に隣接し、その土着の種を含んでいることが理由だと思われる。

また、「長崎バイオパーク」の約1/3を占める「その他」は昆虫綱が大部分であるほか、「久留米市鳥類センター」はその名の通り、鳥綱が8割以上を占めています。一方で、「アフリカンサファリ」のように哺乳綱に特化した園もありました。

全体の規模をみると、おおよそ50種前後と100種前後の2つに大別されるようです。

●最もポピュラーな動物は？

最も多くの園で見ることのできる動物は「テンジクネズミ(モルモットのこと)」、「カイウサギ」「チリーフラミンゴ」の3種類で、11園中9園で見ることができます。次いで、「ライオン」と「ラマ」が8園で続き、過半数の6園以上で見ることのできる動物は21種類でした。(表2)

なお、「トラ」については、「トラ」、「アムールトラ」、「スマトラトラ」の3種に区分されており、これらを

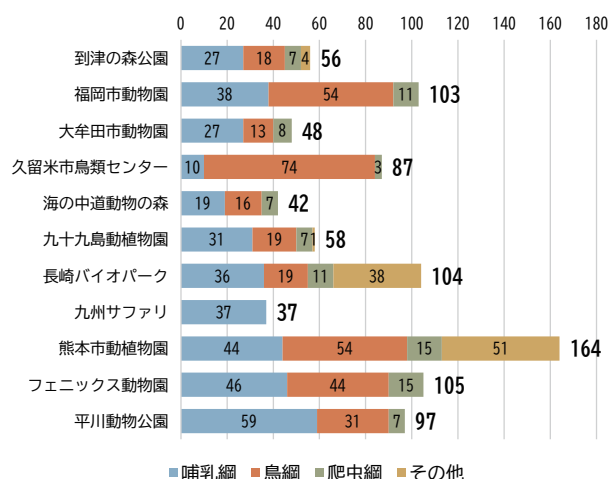


図1：飼育されている動物の種類数

合わせると8園で見ることができます。その他の有名な動物では、「ゾウ」（区分されている場合は合算、以下同様）は4園、「キリン」は8園、「シマウマ」は7園で見ることができます。

また、分類上の「科」に着目すると、最も多いのは「キジ科」の39種、次いで「カモ科」26種、「インコ科」18種と鳥綱が上位を占めています。哺乳綱の中では「ウシ科」が最も多く、「オナガザル科」、「ネコ科」と続きます。特にウシ科にはヒツジやヤギが含まれており、これらが複数種飼育されているケースもあることから種類が多くなっているようです。一方で、1園だけでしか見られない種は313種と全体の62.5%、2園までを含めると80.9%となっており、ほとんどの動物は、その動物園に行かないとみるこのできないこととなっています。

●動物園って奥深い

今回、動物園のデータをリストアップして、少しだけ分析をしてみました。データをざっと眺めてみるだけでも、知らない動物の名前があったり、前述のように、同じトラでも複数の種に区分されていたりと、まだまだ深堀すると面白そうなデータが完成しました。

また、本筋とは変わりますが、動物園の沿革をみても、到津の森公園のように民間により設立され経営不振により閉園、その後、行政により再整備されたものや、久留米市鳥類センターのように市立動物園として開園したのち、鳥類に特化していったものなど、それぞれの歴史や特徴があって面白いものでした。

表2：過半数（6園）以上で見ることのできる動物

和名	綱	園数
テンジクネズミ（家畜）	哺乳綱	9
カイウサギ（家畜）（雑、品種不明）	哺乳綱	9
チリーフラミンゴ	鳥綱	9
ライオン	哺乳綱	8
ラマ（家畜）	哺乳綱	8
ケツメリクガメ	爬虫綱	7
カピバラ	哺乳綱	7
ベニロフラミンゴ	鳥綱	7
オシドリ	鳥綱	7
インドホシガメ	爬虫綱	6
クサガメ	爬虫綱	6
オグロプレーリードッグ	哺乳綱	6
マーラ	哺乳綱	6
シセンレッサーパンダ	哺乳綱	6
ミーアキャット	哺乳綱	6
ワオキツネザル	哺乳綱	6
アカカンガルー	哺乳綱	6
ホオジロカンムリツル	鳥綱	6
インドクジャク（家禽）	鳥綱	6
ルリコンゴウインコ	鳥綱	6
ベニコングウインコ	鳥綱	6

表3：科に着目した際の順位

順位	綱	科	種類
1	鳥綱	キジ科	39
2	鳥綱	カモ科	26
3	鳥綱	インコ科	18
4	哺乳綱	ウシ科	16
4	昆虫綱	クワガタムシ科	16
6	哺乳綱	オナガザル科	13
6	哺乳綱	ネコ科	13
8	哺乳綱	ウマ科	12
9	鳥綱	ハト科	11
10	鳥綱	タカ科	10
10	鳥綱	ツル科	10
10	爬虫綱	又マガメ科	10
10	爬虫綱	リクガメ科	10

皆様も、もし動物園から足が遠のいているようでしたら、お近くの園に行ってみてはいかがでしょうか。その際には、ぜひ園のHPなどで、沿革などをご覧になっておでかけされることをお勧めします。

（櫻井 恵介）

✿ 新年の抱負

●計画づくりの生みの苦しみを学ぶ

以前より業務で携わる機会のある環境分野の計画だけでなく、昨年度からこども関連や文化関連の計画づくりをお手伝いしています。

これまで業務として携わったことのない分野だったため、勉強しながら国や県の動向等を踏まえた計画づくりを行いました。こども関連計画では、計画の構成から具体的な内容まで検討しましたが、現状分析や課題、その点を踏まえた目標や方針の設定まで一貫性のあるものにすることは難しく、諸先輩からのアドバイスをいただきながら、何度も再考することで、一通り形にすることができました。また、文章を書き進める上で、言葉選びや表現方法が単調になるところが多いことを実感しました。

今年の目標の一つとしては、基礎中の基礎ですが、読書量を増やしポキャブラリー量の充実を図るとともに、計画や各種調査報告書等、文章を書く機会を増やすことで、文章作成能力を向上したいと思います。

●データの見せ方の向上を図る

昨年も、GPSデータ（位置情報データ）を用いた人流分析の業務を数多く行いました。この経験で、データの集計や可視化をいづらか効率良くできるようになりました。一方で、データの可視化の表現方法をもっと分かりやすくし、きれいな見せ方を意識したいと思います。これは、GPS分析だけでなく、アンケート調査やワークショップ等の各種調査のとりまとめや、提案書や報告書作成にも共通するため、日々努力していきます。

●健康第一

昨年は、近年で1番体調を崩した年でした。7月に新型コロナに初めて感染し、10月には急性胃腸炎による下痢・発熱を起こすなど、自己管理が十分にできていませんでした。

時間が許す範囲で歩いていける範囲は極力徒歩で移動するなど、日頃から運動することは意識していました（徒歩で十分かと言われるとそれまでですが）。また、新型コロナ感染以降は、睡眠時間も十分にとるなど体調には気にかけてつもりでした。

それでも体調を崩してしまった要因として考えられるのは不規則な食生活です。昨年に入ってから3月までの年度末の時期の食事は、遅い時間の食事や栄養バランスの偏りがありました。それが4月以降も続き、体調を崩すことが多くなったのではないかと思います。

そのことから、今年は健康第一に栄養バランスの良い食事を心がけたいと思います。昨年は自炊の機会が減っていましたので、まずはそこから改善を図り、週2日からでも行うことを目指します。

最後に私事ですが、今年30代となりますので、これまで以上に責任感を持って日々過ごしていきたいと思っています。来年の初めに、昨年は充実した1年だったといえるようにしたいものです。

（益戸 亮平）

✿ 一級建築士試験にリベンジ！

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

年を追うごとに時間に対して感じる時間が短くなってきたと感じていますが、それでも昨年の1年は学びの多い1年だったと思います。私は一昨年の9月に入社したので、入社当初に関わる業務の多くは途中からの参加でしたが、昨年は、多くの業務に初めから関わる事ができ、より業務に対する理解度を深めることができました。

また、昨年に一級建築士の試験に自主学習で挑戦しましたが、不合格となったため、資格学校に通い始めました。週に一度、学校で授業を受けるのですが、予習や宿題などもあり、仕事との両立に奮闘する日々を過ごしています。

昨年のおかネットにも記載しましたが、私は1年の目標を漢字1文字で表現する習慣があります。昨年の1文字は「挑」という漢字で表しましたが、私自身振り返っても多くのことに挑戦はできたと感じています。しかし、挑戦したのは良いのですが、事によっては先を見誤って行動したこともあったなど反省しています。そのような反省点も踏まえつつ、今年目標とする漢字は「刻」にしたいと思います。思いとしては、一級建築士の勉強する時間を確保する中で、時間を大切に使うと考えており、時間の単位

で使用される「刻」を考えました。また、勉強時間を確保するうえで、休日などの外出も極端に減り、気付いたら月日が経っていたという事もあるため、今年は季節ごとに、その季節ならではのイベント等を行い、思い出に刻みながら過ごせればと思います。

(宮川 武大)

📌 志賀島の支援を始めて感じた喜びと学び

よかネット(154号)でご紹介した「勝馬ルシェ」ですが、今年度からは月に1回の定期開催をしています。勝馬ルシェの開催のお手伝いと並行して、マルシェ運営の為に組織づくりとして実行委員会の立ち上げを今年度から行っています。勝馬ルシェを地域内で運営し続けるための素地を整え、地域の方と勝馬ルシェを作り上げることができ、喜びを感じています。出品者の方からは「勝馬ルシェに出品することが最近の楽しみになっている」という声もいただき、なじみのお客さんもつき、最後まで奮闘したいと思います。

勝馬ルシェの運営を支援している中で、志賀島や出品者としての想いなど、様々な方の意見や想いが交錯します。その中で勝馬ルシェにとって本当に必要なことは何かを見極めることができず、間違った選択をすることもありました。このような中で、一度立ち止まり物事を俯瞰した上で最終的な目的を再確認することの大切さを学びました。

以上の経験から新年の抱負として「何事も一度立ち止まってから」を掲げます。1つのものごとに対して、動き出す前に進む方向や目標が間違っていないか確認することで、その後の大きなミスを防ぐに繋がると思います。仕事も含め日々の生活の中でも「何事も一度立ち止まってから」を心に留めて取り組みたいと思います。

●休日もアウトドア

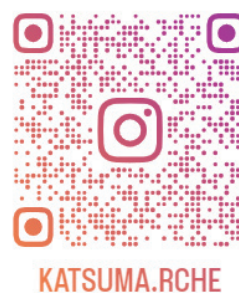
ところで、勝馬ルシェでSNS発信を始めたことで、写真を撮る回数が増えました。苦手意識のあった写真撮影ですが、最近友人と旅行の思い出として多くの写真を撮ったことが楽しく、現在は撮影の構図などを勉強中です。まだまだ未熟ではありますが、自分の満足できる写真やSNSで人に興味を持ってもらえる写真を撮れるようになりたいと思います。

他には、キャンプと登山も道具を購入し本格的に始めました。おすすめのキャンプ場や山があれば、教えていただければ幸いです。

★勝馬ルシェの今後の開催予定★

日時 毎月度第4土曜日 11時～16時
(1月25日/2月22日/3月22日)
場所 喜多乃家(福岡市東区257-4)

※最新情報は下記のInstagramからご確認ください。



(酒見 知里)

📌 オタ活続いています

航空オタ12年目に突入しました。昨年は松島基地、小松基地の航空祭と島原城築城400年記念事業に行ってきました。

●ブルーインパルスを3度楽しめる松島基地

例年、松島基地航空祭の前日に東松島夏祭りという基地近くで開催されるお祭りがあるのですが、そのお祭りでもブルーインパルス(以下ブルー)が飛びます。そして翌日の航空祭では2回飛びます。天気が悪いとキャンセルになることもありますが、ブルーを生で見たいという方にはチャンスが多いのでお勧めです。

●九州の基地の航空祭にブルーが来ない！！

航空祭を開催している基地は全国に10ヵ所以上ありますが、すべての基地でブルーが飛ぶわけではありません。毎年どの基地で飛ぶかは航空自衛隊HPにUPされるのですが、今年度のスケジュールに九州の基地の航空祭は入っていませんでした。例年だと芦屋基地、築城基地、新田原基地、那覇基地のどこかには来ていたので、残念でした。

その代わり別府市制100周年記念事業&第110回



島原城と「サクラ」という演目

記念別府八湯温泉まつり、SAGA2024 第 78 回国民スポーツ大会、島原城築城 400 年記念事業で飛ぶ予定になっていました。しかし、別府と佐賀は、前日の予行は飛びましたが、本番当日は天気が悪くキャンセルになってしまいました。

●島原大盛況で大渋滞

島原城の当日は天気も良く、上空にいい具合の風が吹いていて最高の飛行日和でした。「上空にいい具合の風」というのは、ブルーが飛んだ後に残るスモークをいい具合に消してくれる風のことです。無風だと前に飛んだスモークが残ってしまうし、強すぎるとハートやサクラなどが描いてるそばから流れてしまいます。

イベントで飛ぶことが増えたブルーですが、島原では 11 演目の飛行（時間や空域の関係で、少ないと 1、2 演目の時もあります）が行われたので、見ごたえがありました。

福岡から島原までは車で 3 時間半ぐらいかかるので、前日から島原に行き小浜温泉に泊まりました。小浜温泉は島原半島の西側にあります。島原城は東側なので、当日は朝早くから島原城付近へ行き、近くの臨時駐車場に車を停めて島原城内から見ました。

帰りは渋滞が予想されたので、ブルーが終わった瞬間に城内を出て駐車場に行き車に乗り込みましたが、駐車場を出るまでに 1 時間かかり、3 時間経ってもまだ島原半島にいました。

結局家に着くまで 6 時間強かかってしまいました。

●ブルーが飛ばなくても楽しい

ブルーが飛ぶとももちろん楽しいのですが、飛ばな

い航空祭でも、輸送機が所属している基地や戦闘機が所属している基地など、その基地の特徴を活かした飛行や地上展示など楽しめることがたくさんあります。

興味がある方は近くの基地の航空祭に足を運んでみてください。

今年もよろしくお祈りします。（佐伯 明日香）

■ BOOKS



教会建築家
鉄川与助の生涯

著者 鉄川ひろ子氏

この本は、教会建築家といわれている鉄川与助（以下「与助氏」という。）のお孫さんである鉄川ひろ子氏が、孫の目線から祖父・与助氏の仕事ぶり、暮らしぶりを描いたものです。ひろ子氏の得意な英語を活かして、次の頁に英語が添えられています。

私は、与助氏が長崎県五島で多くの教会を建てた方とは知っていましたが、どのような経緯で教会建築に係ったのかは、全く知りませんでした。

与助氏は、1879（明治 12）年、五島列島中通島新上五島町に 3 代続く大工の長男として生まれ、自然と大工の仕事を生業とし、17 歳のときには普通の日本家屋を建てる力量があったそうです。与助氏の教会建築との出会いは、フランス出身の宣教師アルベルト・ペルー神父設計の「旧曾根教会」を手伝ったことから始まります。

その後、与助氏 32 歳のときにフランスの宣教師であるド・ロ神父のもとで大浦天主堂の隣に建つ「旧長崎大司教館」の仕事を一緒にすることで、さらに建築を学んでいきます。

私も 10 数年前、長崎市外海地区に建つド・ロ神父が設計・施工した出津教会堂、大野教会堂を視

察したことがありますが、地元の石や木材を使った素朴さがなんとも地域の風景に調和しています。

近代の建築は設計と施工は分離発注式が主であり、最近の設計・施工一括発注にしても設計者と施工業者は別々で仕事をしています。

しかし、与助氏が最も仕事をしてきた昭和初期ごろまでは、棟梁が設計、施工、監理の殆どを請負い、建物を完成させていました。当時、事業主が人夫を雇うお金がない場合は、教会の門徒たちが人力を提供していたそうです。また、事業主に代わってお金の工面もすることもあったと記されています。

与助氏の仕事場が住まいの近くにある場合は、与助氏の奥さん（祖母）が人夫さんたちの食事や洗濯など、身の回りのお世話をしていたということですから、さぞや奥さんも大変だったろうと思います。

与助氏本人から聞き書きした作品譜によると教会 28 件、教会関連施設 19 件、学校 8 件、その他公共施設 5 件、寺院 3 件、医療施設 3 件と全部で 82 件の建物を建てています。

特に、現在の浦上天主堂建築の物語は、与助氏から子供の与八郎氏に受け継がれたものであり、その再建経緯の物語は感動的です。初代浦上天主堂は 1895（明治 28）年にフレノ神父の設計・施工により開始され、その後、いくつかの増改築を経て 1914（大正 3）年に献堂されています。11 年後に与助氏の設計により双塔を増築しています。旧浦上天主堂は足掛け 30 年の歳月をかけて建てたものでしたが、昭和 20 年 8 月 9 日の長崎原爆のため、破壊されました。その後、再建の話が持ち上がり、息子さんである与八郎さんが一から鉄筋コンクリートの技術を学び、1959（昭和 34）年に現在の浦上天主堂が建てられました。

ひろ子さんによると、晩年の与助氏は、お酒は 1 合の 8 分目、毎日同じ量の食事を同じ時間に食べていたそうで、酔っぱらった姿は一度も見たことがなく、いつもニコニコしていたとのこと。厳しく自分を律する暮らし方をしていたとのこと。1976（昭和 51）年、97 歳で天寿を全うされています。

この本は、与助氏の教会建築に捧げた生涯を描いた話であるとともに、近代化する以前の建築の歴

史を知る上でも貴重なものです。

（山田 龍雄）



『ビクター・グルーエン』
～「ショッピングモールの父」と呼ばれたくなかった男～

日本橋出版
ハーレイ・岡本著

全国に 3 千か所を越える数のショッピングモール、ショッピングセンターが日本に最初に登場したのは 1981 年開業の「ららぽーと船橋ショッピングセンター」である。この本は、こうしたモールを最初に考え出した「ビクター・グルーエン」とショッピングセンターの物語である。

著者の岡本氏は、NP0 団体 TOM ネットの専務理事で、全国の中心市街地・都市再生のまちづくり活動を支援している。専門はショッピングセンターなどのイベント会社の経営で、各地でにぎわいづくりに奔走する日々である。

本書の構成は、グルーエンの人生において関わりのあった都市を表題としてドキュメンタリータッチで描かれている。

目次

- 第 1 章ウィーン 1903 ～ 1938
- 第 2 章ニューヨーク 1938 ～ 1941
- 第 3 章ビバリーヒルズ 1941 ～ 1948
- 第 4 章ハリウッド 1948 ～ 1954
- 第 5 章デトロイト 1948 ～ 1954
- 第 6 章ミネアポリス 1954 ～ 1956
- 第 7 章フォートワース 1954 ～ 1958
- 第 8 章ロチェスター 1956 ～ 1962
- 第 9 章フレズノ 1958 ～ 1964
- 第 10 章パリ 1967 ～ 1971
- 第 11 章再びウィーン 1969 ～ 1980

グルーエンが、ショッピングセンターの建築にあたって取った技法は、演劇や映画のシナリオや演出

からの援用と言われている。

ヨーロッパの建築と舞台美術には深いつながりがあり、グルーエンの都市計画とショッピングセンターのことを「優雅なるドラマ」と称賛もされている。

著者は、グルーエンは、郊外ショッピングセンターと都市コアの再生に邁進しその生涯を終えたが、次代に受け継がれるショッピングセンターと都市の最善の努力を夢見ていたという。

今日の日本の都市行政もニューアーバニズムやコンパクト・プラス・ネットワークなど、ミクストユースがメインストリームになっている。この潮流こそグルー

エンの発案した都市環境計画であったという。グルーエンは単なる商業施設をつくりたかったわけではなく、考えていたものは都市機能であり、器のようなもので、あらゆる社会的欲望を満たすための『公器』であるという。

グルーエンの名はあまり知られていないが、彼が作り出したショッピングセンター文化と都市環境計画は現在も色褪せてはいない。

グルーエンの遺してくれたことば、

「人類の目的は都市への最善の努力である」

(山辺 眞一)

■表紙解説

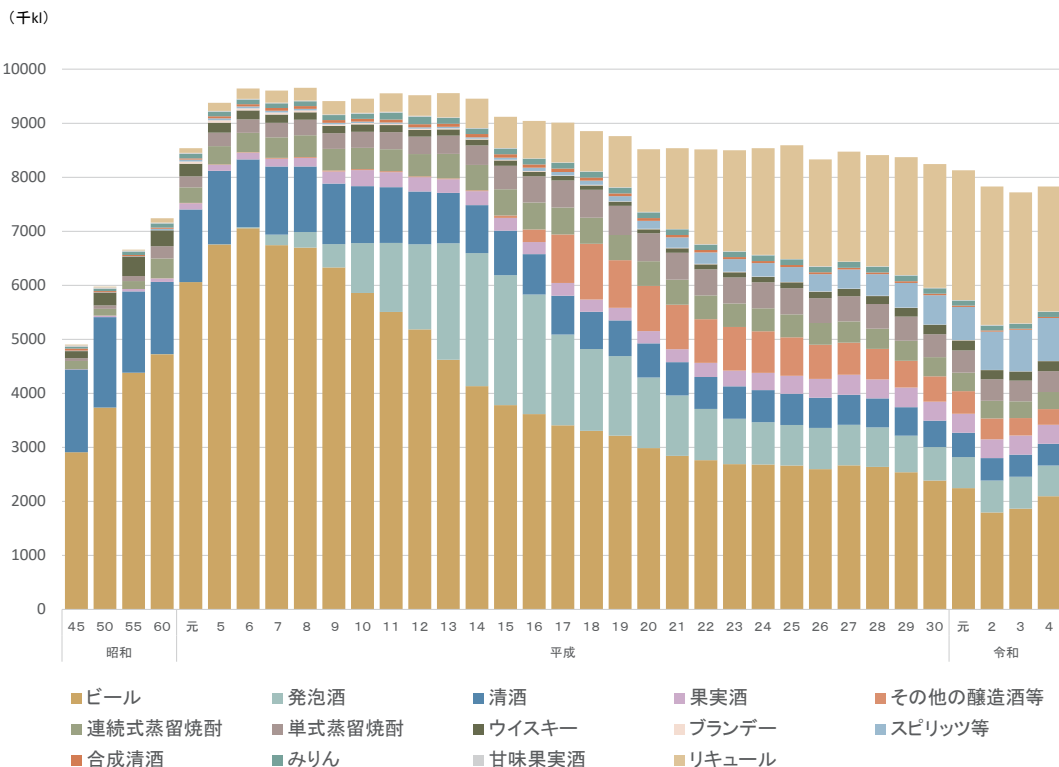
酒類販売（消費）数量の内訳が、この数十年で大きく変化している。消費数量の全体は徐々に減少しているものの、その中でも大幅に減少しているものもあれば、数量を伸ばしているものもある。

平成17年にその他の醸造酒等が増えた要因は、平成16年に発売された「第3のビール」の影響が大きいと思われる。

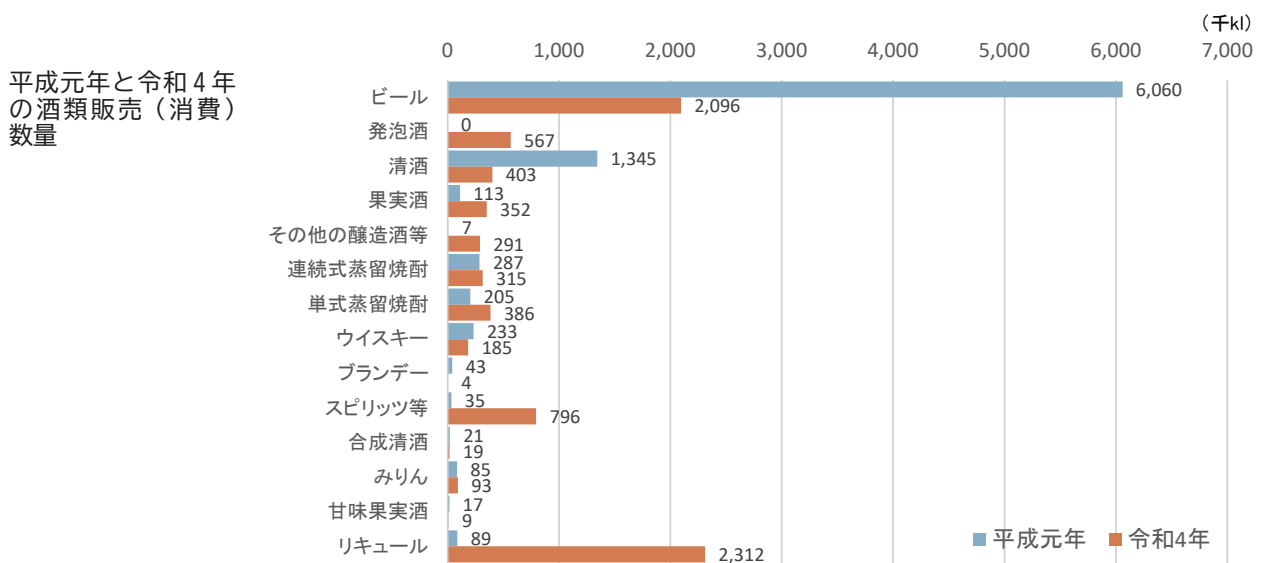
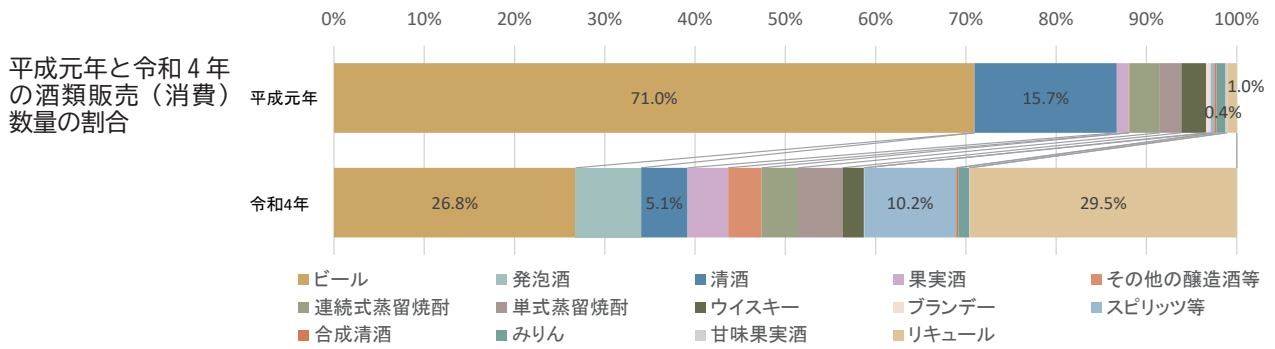
令和4年の総販売（消費）数量と比較的総量が

近い平成元年とを比較すると、平成元年には果実酒、甘味果実酒、ウイスキー、ブランデー、発泡酒、リキュール、スピリッツ等、その他の醸造酒等は、合わせても全体の6.3%を占めるにとどまっていたが、令和4年には、それらの合計が全体の57.7%を占めるほどになり、反対にビールは全体に占める割合が41.0%から26.8%へと大きく減少した。

酒類販売（消費）数量の推移（国税庁）



※平成5年より前は5年ごとのデータになっています



この間、消費数量の変化として減少したものは、減り幅の大きいものから、ブランデー（対平成元年比9%）、清酒（30%）、甘味果実酒（35%）、ウイスキー（79%）、合成清酒（90%）となっている。

反対に増え幅の大きいものから、その他の醸造酒等（4,157%）、リキュール（2,598%）、スピリッツ等（2,274%）、果実酒（312%）、単式蒸留焼酎（188%）、連続式蒸留焼酎（110%）、みりん（109%）である。嗜好の分散と多様化がみられる。

発泡酒は、平成元年のデータでは0（千kl）となっているが、平成5年度は2（千kl）であり、令和4年には283.5倍とその他の醸造酒等の41.6倍をはるかにしのぐ伸びを見せている。

ただし、発泡酒の消費量は平成14年をピークに、また、その他の醸造酒も平成18年をピークに減少を続けており、ビール・発泡酒・その他の醸造酒が後退した隙間を埋めるように伸びてきているのが、スピリッツ等及びリキュールである。

表紙に示しているジンはスピリッツに分類される。

日本洋酒酒造組合の洋酒移出数量調査表で、スピリッツ等及びリキュールの内訳をみると、それぞれチューハイ、カクテルを表す「その他のもの」が大部分を占めており、昨今のレモンサワー、チューハイ等の炭酸入り飲料の人気を表しているものと思われる。

しかし、「その他のもの」を除くと、スピリッツでは、チューハイ・カクテル以外に令和2～4年のジンの移出量の伸びが、対前年比150%前後と大きい。

最近、海外のものを含めクラフトジンを目にする機会が多いが、国内の製造所の内訳をみると、この10年程度で製造免許を取得してクラフトジンの製造を行っているところが目に付く。

九州内のクラフトジン製造所を確認したところ、表紙に示す39ヶ所となっている（酒類製造免許、ネット通販サイト等で確認）。クラフトジンを製造

するスピリッツ専門の蒸留所も4か所存在するが、大部分の製造所では、スピリッツ以外の各種蒸留酒（連続式蒸留焼酎、単式蒸留焼酎、ウイスキー、泡盛等）を製造している。取得時期は、データを確認できる平成26年以降に新たにスピリッツ製造免許を取得したところが20カ所、それ以前に製造免許を取得しているところが19カ所である。

なお、酒類の製造には品目ごとに免許が必要であり、クラフトジンを含むスピリッツの製造には専用の免許が必要である。

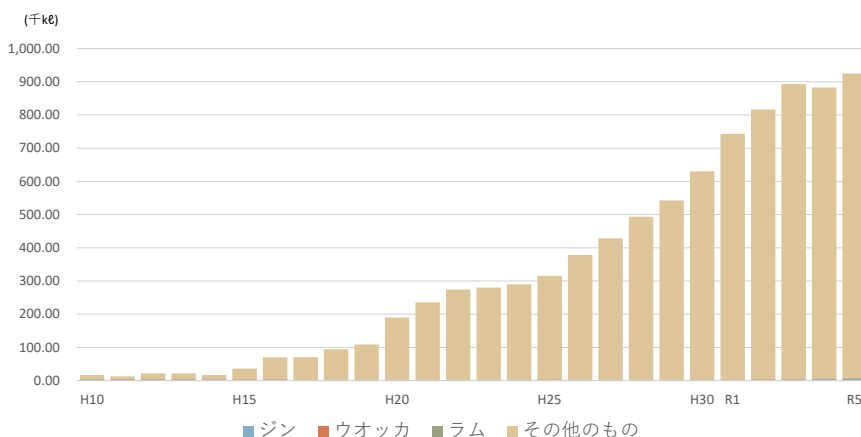
ジンの特徴づけるもののひとつにジュニパーベリーとその他のボタニカル等があり、各地の製造所は地元で入手できる様々なボタニカル等を用いている。個性的なものでは、GOTOJIN（五島つばき蒸留所）の椿の実・つばき茶・椿油絞り粕、OGIGIN（小城蒸留所）の羊羹・海苔、茶神（宗政酒造）の佐賀県産紅茶などがあり、魅力的なクラフトジンが各地に存在する。

既存の蒸留酒を活かし、地域の独自性を打ち出しながら新たな市場の開拓に挑む製造者の挑戦が見えてきた。

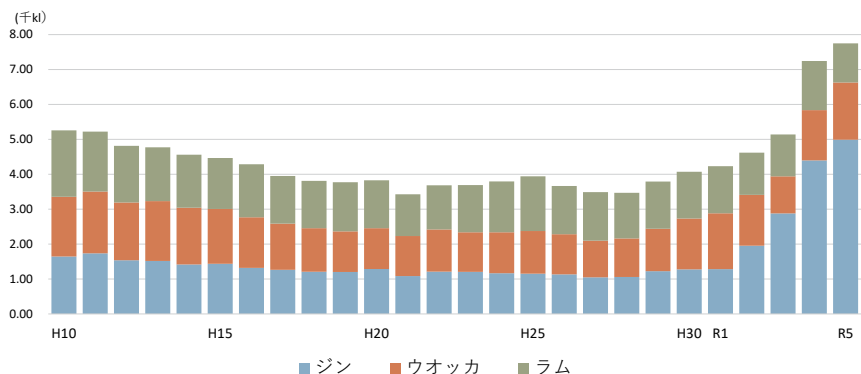
市場ではチューハイ・カクテルに似た形状ながらスピリッツに分類される缶タイプの炭酸入ジン飲料の販売も好調である。ジンの認知度向上を背景にクラフトジンも消費量を伸ばして存在を大きくし確かな位置を確立するのか、あるいはその前に新たなタイプの飲料が台頭するのか。また今後どんな個性的なクラフトジンが登場するのかしないのか。嗜好の移り変わりはすでに目にしている。色々なことに興味が尽きない。今後の展開を興味深く見守りたい。

（福吉 聡子・佐伯 明日香）

洋酒移出数量（スピリッツ）（日本洋酒酒造組合）



洋酒移出数量（上記の内ジン・ウォッカ・ラムを抜粋）（日本洋酒酒造組合）



編集後記

福 チューハイといえば焼酎のハイボールだと思っていましたが、最近では必ずしもそうとは限らないと知り驚きました。（福）

佐 今回お酒を調べてみて、チューハイとひと口に言っても、原材料やエキス分により「リキュール」や「スピリッツ」に分類されていて、分類の複雑さに嫌気がしました。（佐）

よかネット No. 156 2025.1

（編集・発行）

（株）よかネット

〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3番8号
福岡パールビル8階

TEL 092-283-2121 FAX 092-283-2128

http://www.yokanet.com

mail: info@yokanet.com

（ネットワーク会社）

（株）地域計画建築研究所

本社 京都事務所 TEL 075-221-5132

大阪事務所 TEL 06-6205-3600

東京事務所 TEL 03-5244-5132

名古屋事務所 TEL 052-462-1030